九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Construction of a Positive Perception Model of Amyotrophic Lateral Sclerosis Caregivers

岩木，三保

https://doi.org/10.15017/1866264

出版情報：九州大学，2017，博士（看護学），課程博士
バージョン：
権利関係：

氏　　名：岩 木 三 保

論 文 名：Construction of a Positive Perception Model of Amyotrophic Lateral Sclerosis Caregivers
（筋萎縮性側索硬化症介護者の肯定的認知モデルの構築）

区　　分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

筋萎縮性側索硬化症（以下、ALS）は進行性の神経難病で、その介護負担感は他の疾患に比べると高い傾向にあり、ALS 介護者を対象とした先行研究では、介護負担感の関連要因の検討など、介護の否定的な側面に焦点が当てられてきた現状がある。介護には介護負担感のような否定的な側面だけではなく、肯定的な側面も存在することが言われてきているように、ALS 介護者には介護に対する肯定的認知（以下、肯定的認知）が存在することも明らかになっている。しかし ALS 介護者の肯定的認知とその関連要因、介護負担感との関係性など、介護に対する認知についての構造は、国内外においてまだ明らかになっていない。ALS 介護者の理解が促進されることは、介護者への質の高い生活の支援に寄与すると共に、患者に対するケアの向上にも貢献できると考える。そこで本研究では、ALS 介護者の介護に対する肯定的認知に影響を及ぼす要因について、介護負担感との関係性も含めて構造的に明らかにすることを目的とした。

まず肯定的認知の影響要因(以下、影響要因)の抽出を行うため、半構造化面接によるインタビュー調査を 9 名の ALS 介護者に実施した。逐語録から影響要因の抽出・分類を行った後、メンバーチェッキングと複数の研究者からのスーパービジョンを受けた。さらに、専門家に対する質問紙調査を実施し、影響要因を 21 項目に精錬した。

次に肯定的認知モデルの構築を行うため、当事者団体である日本 ALS 協会事務局の会員で、在宅介護を行っている介護者を対象とする無記名自記式アンケート調査を実施した。質問紙は、肯定的認知（Caregiving Gratification Scale）、介護負担感（BIC-11）、

影響要因21項目、患者と介護者の属性で構成した。866人（回答率47.8%）から返答があり、うち495人（有効回答率27.3%）を分析に使用した。影響要因21項目について、平均値および標準偏差による天井効果・床効果の検討、各項目間の相関、Item-Total Correlation Analysis（I-T分析）を行って13項目に整理した。そして探索的因子分析を行い、3因子13項目を肯定的認知の影響要因として抽出し、【対処方略の強化】【患者との相互作用】【介護者同士の支援体制】と命名した。

最後に、因子分析により抽出された影響要因【患者との相互作用】【対処方略の強化】【介護者同士の支援体制】を潜在変数、肯定的認知と介護負担感を観測変数とする仮説モデルを作成し、共分散構造分析によるモデリングを繰り返して、モデルの修正・改良を行った。その結果、影響要因【対処方略の強化】【患者との相互作用】【介護者同士の支援体制】を媒介する介護負担感が、肯定的認知に影響するモデルにおいて、標準偏回帰係数は全て有意、$\chi 2=243.64$（P=0.000）、GFI=0.935、AGFI=0.912、AIC=307.645、CFI=0.910、RMSEA=0.060と、もっとも高い適合度が得られた。本モデルにおいては、【対処方略の強化】を外生変数とし、【患者との相互作用】と【介護者同士の支援体制】の2方向へ有意な影響を示していた（P<0.001）。【対処方略の強化】から介護負担感に有意な負の影響を示していた（P<0.01）。また【患者との相互作用】と【介護者同士の支援体制】も、それぞれ介護負担感への影響を示していた。【対処方略の強化】から介護負担感への影響については、直接効果が－0.15で、間接効果は【患者との相互作用】の場合0.03、【介護者同士の支援体制】の場合0.05であった。介護負担感は、影響要因3因子の媒介となり、肯定的認知に負の影響を与えていた（P<0.01）。

本モデルにおいては、【対処方略の強化】が起点となり、直接的に、または【患者との相互作用】【介護者同士の支援体制】を間接的に経由して、介護負担感の増減につながり、肯定的認知を高めていた。このことから、ALS介護者は介護負担の経験を経て、介護をより肯定的に捉えることができるようになることが示唆された。また介護負担感を軽減することで肯定的認知が高まることが確認され、介護負担感を軽減することの重要性が改めて示された。

本調査対象者は、医療依存度の高い患者の介護者が多く、当事者団体に所属している介護者であることなどの偏りが見られた。また介護者の認知の構造に関しても介護負担感に焦点をあてた先行研究しか存在していないことなどもあり、本結果が全てのALS介護者の特徴であるかどうかは明らかではなく、更なる解明が必要である。